

30

2016・November

●Published by KOBE COLLEGE

神戸女学院大学

少人数制ならではの 利点を生かす

―女学院生の特徴に合わせた就活支援の構築―

●就職活動について、生の声を聞く

地域と繋がり、健康な社会を築く――5

精神・知的障がいのある人々と共に歩める環境づくり
水本 誠一 准教授

自分と向き合い、歌で表現する――9

オペラ歌手を目指し、新生活へ
新国立劇場オペラ研修所 研修生 十合 翔子 さん

●神戸女学院大学「大和橘」菓子プロジェクト2016

日本固有の柑橘「大和橘」を使った菓子づくり――11
神戸風月堂と高岡ゼミのコラボレーション

●地域・企業連携

西宮市、地元企業と共に、西宮ブランド産品を創出する ほか――13

●派遣留学でロックフォード大学の学位を取得

チャンスは逃さず、何でもチャレンジ――15

●学生ノートテイクによる聴覚障がい者支援

聴覚障がい者に寄り添い 自らの見聞も広める――16

●ラクロス関西選抜メンバーに抜擢

海外での対戦経験を生かし、関西ラクロス界の底上げを狙う――17

●四大陸フィギュアスケート選手権に、国際ボランティアとして参加

国際的な大舞台で、自身の英語力を試す ほか――18

KCインフォメーション――19



Career Support



積極的にチャレンジして失敗してもいい。
その経験は必ず自分の成長に繋がるので、
恐れずにどんどんチャレンジする人を望んでいます。(平井)

町田 直近の3年間に弊社へ入社した女学院生には、突破力があります。何でもまずやってみる人が多く、求められたことに対して、やり遂げようとする意志が強い。一方で、全体を俯瞰し、論理的に組み立てることは苦手なようです。

町田 過去の内定実績を見ると、女学院は選考後半に内定を獲得した人が多く、少しスタートダッシュが遅いようです。もっと早くに活動のピークが来てもいいですね。

平井 昔から、言ったことにすぐ反応し理解度が高い。例えば、平均値の怖さについて。求人倍率の平均値が1.75倍でも、別の業界では6〜7倍と数字を押し上げており、金融は0.2倍。5人に1人しか採用されない。そのことを話すとき、スポンジのように吸収し、次へ活かす姿勢が見えます。私は毎日のようにどこかの大学に行つて話をしていますが、そこが長けている大学はそうありません。

平井 出身校に誇りを持っているのは素晴らしいこと。凛とした接し方、よい意味でのプライドがあり、好ましく思います。

町田 直近の3年間に弊社へ入社した女学院生には、突破力があります。何でもまずやってみる人が多く、求められたことに対して、やり遂げようとする意志が強い。一方で、全体を俯瞰し、論理的に組み立てることは苦手なようです。

町田 過去の内定実績を見ると、女学院は選考後半に内定を獲得した人が多く、少しスタートダッシュが遅いようです。もっと早くに活動のピークが来てもいいですね。

●就職活動について、生の声を聞く

少人数制ならではの利点を生かす

—女学院生の特徴に合わせた就活支援の構築—



▼就活の現状と求める人材

●採用担当者インタビュー

- 大阪シティ信用金庫 人事部 次長
平井 崇弘 さん——HIRAI Takahiro
- 三井住友海上火災保険株式会社
関西総務部 人事総務チーム
新卒採用ユニット
町田 佳奈 さん——MACHIDA Kana

平井さんは長年、金融業界で新卒採用、人事に携わってこられて、また町田さんは損害保険会社の新卒採用担当、そして神戸女学院大学の卒業生として、今の大学生像をどう捉えていますか？

平井 よい意味ですごく真面目です。が、私達が新卒採用で重視するのは可能性や伸びしろ。入社後に何をしたいのか具体的に言える人は少なく、そこには物足りなさを感じます。

町田 インターンシップで毎年800名強の学生さんとワークをしますが、

結果重視の人や、他人の評価を気にする人が多いと感じます。否定や注意を受けた時に自分を責めすぎる傾向もみられます。否定や批判を受けても「挽回するぞ」というタフさやバイタリティーが欲しいですね。

ただ、丁寧なやり方を教え、褒めて伸ばすと吸収するスピードは速いですよ。

面接の際、特に着目することは？

平井 チャレンジする人かどうかです。若い頃はいくら失敗しても上司や先輩が盾となってくれることが多いので、積極的にチャレンジして失敗してもいい。その経験は必ず自分の成長に繋がるので、恐れずにどんどんチャレンジする人を望んでいます。

町田 仕事は自分の思うようにいかないことの連続です。だから、何があっても「何とかするぞ」というタフなマインドが必要。そこを見えています。

平井 私も面接では、敢えてその人の好きなこと、得意なこと以外にも話を振って反応を見ます。そういう時の対応に、その人の真価が見えてきますから。

町田 今の企業面接は、対話形式を用いて、その人のよさを知る。ことが主

2016年卒、2017年卒と2年連続で就職活動のスケジュールが変更となり、学生・企業ともに、現場では大きな混乱が生じた。

しかし、こうした状況においても、神戸女学院大学の学生は就活に真剣、かつ前向きに取り組み、しっかりと自分の進路を決定している。彼女達の姿は、企業の採用担当者の目にも映っているのか？

また、内定を獲得した学生は、どのような意気込みで就活に臨んだのか？学生を支援するキャリアセンターの担当者も交え、それぞれの立場から就活について語り合った。

女学院生には「突破力」があります。
何でもまずやってみる人が多く、求められたことに対して、やり遂げようとする意志が強い。



平井 就活は理屈抜きで、よいいもののドンが速い人が勝つ可能性が高い。もう少し早めに動けば、もう一段二段とよい企業に入社できるはずだ。

いる時間が限られるので、やりたいポジションに就いてから考えていたのでは遅いのです。

町田 知識やスキルではなく、職場に新たな風を吹き込み、活性化させることです。私達に「この新入社員を育てねば」と思わせるくらいの頑張りや、心意気を見せて欲しいと思います。

平井 与えられたら即行動することです。最初の3年間は、知識の習得など、大切だけどもやらされ仕事も多く、面白くないと思いがち。でも、こんなお客様が来たらどう対応しようか？この商品をもっとよいものに出来ないか？と、自分がその立場に立つたらどうするかを常に考えていると、仕事は面白い。

銀行・信用金庫の業界は5年以内の定期的な転勤があり、同じポジションに

■平井崇弘(ひらい・たかひろ)
1996年 大阪市信用金庫入庫。研修・採用担当を経て、2015年人事部次長に就任。年間100程度の就活セミナーや講演を行い、学生指導を行う。神戸女学院大学でも「保護者のための就職セミナー」等、学内行事で多数講演。



■町田佳奈(まちだ・かな)
2014年 神戸女学院大学文学部英文学科卒。同年 三井住友海上火災保険株式会社入社。入社と同時に新卒採用担当として関西総務部に配属され、インターンシップの運営や各大学でのセミナー講師を務め、若手社員ならではの学生目線を意識した就職活動支援や採用選考を行う。会社の女性活躍推進をPRするため、500名規模の講演を複数回担当するなど、年間述べ18,000名以上の学生と接点を持つ。

Career Support



学生さんと企業との接点を増やすため、
企業様をお招きするイベントも複数企画しています。（樽本）

山川 私は、営業職の面接で「女学院生が営業職？」と言われ、違和感を覚えしました。留学先のフィリピンで70分間のプレゼンをしたことなどを話し、タフな面をアピールしましたが、事務職志望のイメージを持たれているんですね。

▼それぞれの立場から見た就活の現場

◎採用担当者、内定者、キャリアセンター担当者座談会

・平井 崇弘 さん ・町田 佳奈 さん
・山川 さん ・小林 さん
・樽本 裕見子

●キャリアセンター 課長
樽本 裕見子—— TARUMOTO Yumiko

平井 採用側にも固定観念があるかもしれないですね。弊社はまっさらな目で受験者を見たいので、エントリーシートは使わず、履歴書をすみずみまでしっかりと読ませていただきます。そして、メガバンクや地方銀行ではなく、信用金庫で働きたい明確な理由のある人を見つけると、点数に関わらず来社していただく。その人の人となりを見たい企業も必ずあります。

小林 私は、全力を出し切れた最終面接に落ちたり、だめだと思った企業に内定したり、結局何がだめで何が評価されたのかわからず、もどかしかったです。

町田 面接官はうちの会社に合っているかという目線で話をします。面接のレベルは高かったけれど、弊社の社風とは違いため、お断りすることもある。だから、「落ちた＝失敗」ではないですよ。ところで、おふたりはキャリアセンターにある先輩が書いた「就職活動報告書」は読みましたか？



様々なアドバイスが書かれた「就職活動報告書」と「就職活動の軌跡」

山川・小林 めっちゃ読みました！（笑）

樽本 「就職活動報告書」や「就職活動の軌跡」には、就活を終えた4年生が色々なアドバイスを書いてくれていて、キャリアセンターの宝物です。就活する皆さんには必須の資料ですね。

町田 先輩・後輩の関係もありますが、神戸女学院ほど学生とキャリアセンターの絆が強い大学は無いと思います。エントリーシートの添削や、模擬面接の様子をムービーで撮って見直すなど、少人数だからこそできる取り組みを積極的に取り入れていて、需要と供給がマッチしていますよね。

小林 私はキャリアセンターに通い、SPI対策やグループディスカッションのやり方など、自分の能力がどのくらいで何が足りないのかを教わり、次の道筋も示してもらいました。

平井 少人数な程、目が届き、その人に合った企業の選定、指導の仕方が浸透



求人情報や企業別ファイルが並ぶ「キャリアセンター」

する。神戸女学院の学生さんがキャリアセンターを利用するのは正解ですね。

樽本 学生と企業との接点を増やすため、企業様をお招きするイベントも複数企画しています。今年3月の「学内企業セミナー」には107社がお越しください。3年生延べ4610名が参加しました。卒業生が活躍しているところをはじめ、学生の皆さんに合うと思われる企業様に幅広くお声がけをしています。また1、2年生も参加可能な「仕事発見セミナー」「企業研究セミナー」でも、業界を代表する企業の方から仕事・業界・企業にフォーカスしたお話が伺えます。社会に出て働くことについて、より具体的に理解が深まるのではないかと思います。

◎内定者インタビュー

- 文学部英文学科4年生
（専門商社のアズワンに内定）
山川 さん—— YAMAKAWA
- 人間科学部環境・バイオサイエンス学科4年生
（三井住友銀行に内定）
小林 さん—— KOBAYASHI

▼進路の決め方と内定までの道のり

——おふたりは何社くらい受験しましたか？また、入社を決めた理由とは？

山川 70社以上の説明会に行き、35社に絞ってエントリーし、10社の面接を受けました。内定は4社。業界で選んだのではなく、「入りたい！」と思った会社が専門商社でした。自分のできる仕事の業務の幅が広く、深いと考えたことと、ディスカッションを含む5回の面接があり、中身までしっかり見てくださっていると感じたことが決め手です。

小林 私は説明会が50社、エントリーが30社、面接が15社。内定は4社からいただきました。早くから就活を始め、3年生の夏からインターンシップにも参加しましたが、出会った人達、企業、それぞれに素敵なところがあり、業界を絞れませんでした。そこで、「どんな立場で働けば人生が充実するのか？」を考え、幅広く多くの人の役に立ちた

いという原点に戻り、金融業界に魅かれ、銀行の中でも世界と日本との架け橋に関わる職種に決めました。

——特に力を注いだことは？

山川 キャリアセンターに相談し、親にも話を聞いて、自分は何をしたいのか徹底的に考えました。学内セミナーにも全て参加する意気込みで臨みました。

小林 私も「自分を知る」を軸に、イキイキできることは何なのかを考えました。家族やキャリアセンター、雑誌や本からも情報を得ましたが、説明会やセミナーで多くの社会人の方から直接、話を聞いたことが一番勉強になりました。

——大学で得たこと、役立ったことは？

山川 面接やグループディスカッションで、全然應ずることなく発言できたのは、少人数制ゼミのおかげだと思います。私だけでなく、女学院生には積極性が身につけているなと思いました。小林 同じです。私は女学院に入学してから今まで、いろいろな人との出会いがあり、視野も広がり、よいことばかりだった。面接では、そのことを話せて幸せな気持ちになったくらいです（笑）。

——今後の抱負をお聞かせ下さい。

山川 「スパー頼られる営業アシスタント」になりたい。ステップアップできる環境も整っているの、それを利用してどんどん上を目指したいと思います。小林 何でも吸収するのが女学院生のよいところ。4年間でその意欲を磨いたので、新天地でもたくさん吸収し、毎日何か一つ成長できるよう頑張ります。



●社会福祉法人尼崎あすなろ福祉会



●社会福祉法人はづき福祉会



●社会福祉法人精神障害者社会復帰促進協会

——どうやって解決へ導いたのですか？
 反対の背景には精神障がい者に対する偏見があり、行政による明確な説明が十分でなかったことも関係しているようでした。そこで、運営母体が主体となり、行政と共に確固たる信念と運営方針を持って住民に対応するようになりました。また、数百人規模の住民説明会を、最終的には10数人の地域代表者との話し合いへ形式を変えました。そうしていくうちに、住民側も「開設反対」から「開設の条件提示」へと変化していきました。

——特に大変だった点は？

住民側からの条件として、当初はフェンスの設置、通所者の車やバスによる送迎の徹底、外出時の職員の同伴等の困難な条件が提示されたことです。しかし、具体的な提示は、誤解や偏見解消の手掛かりになりました。ひとつひとつ丁寧な解決することで、前に進んだのです。

最終的には2011年、フェンスではなく緑いっぱいの公園に開かれた施設が完成しました。同年に附属池田小児童殺傷事件が起こり、施設前にパトカーが駐留警戒したり、付近に変質者が出る通所者ではないかと警察が確認に来たりすることもありました。し

かし、これも丁寧な説明することで、様々な場所と同じような事件が起こっていることへの理解に繋がりました。

——その後、地域との関係はいかがでしたか？

ある時、施設と公園の境となる緑の垣根に穴があき、土が踏み固められて道が出来ていることに気付きました。いつも公園で遊んでいる子ども達が入ってきていたのです。子ども達は職員が声をかけるとどんどん来るようになり、通所者と一緒に将棋やオセロ等のゲームで遊ぶようになりました。やがて子ども達が毎月開催している利用者の夕食会に参加したいと言うので、それを実現させたり、餅つき大会を開催すると、通りすがりの子連れのお母さん方が参加してくれたり、様々な交流が生まれていきました。

また、反対していた住民の方から相談を受けるようにもなりました。地域に開かれた施設であることも一つの役割とし、今後も応えていきたいと思っています。

●繋がりを重視した環境づくりを

——法人の運営だけでなく、社会福祉団体の全国組織化や、精神科救急医療シ



●人間科学部 心理・行動科学科

水本 誠一 准教授 —— MIZUMOTO Seichi

「施設コンフリクト」という言葉を聞いたことがあるだろうか？これは、障がい者や高齢者のための社会福祉施設の新設計画が、近隣住民の反対運動によって中断・停滞する人権摩擦のこと。はづき福祉会、尼崎あすなろ福祉会、精神障害者社会復帰促進協会で理事長等を務める水本誠一先生は、身体・知的・精神障がい者と地域住民がお互いに理解し安心して暮らせる街づくりをめざし、施設コンフリクトをはじめとする様々な問題に取り組んできた。精神保健福祉士として、また教育者、地域活動家、音楽家の視点から、話を聞いた。



——まず、精神保健福祉士の道に進んだきっかけを教えてください。

私は前職が公務員で、保健所と繋がりがありました。1990年、大阪市・福島区に、心に病をもつ人達のご家族らが「はづき作業所」を設立。六畳一間のアパートから始まり、徐々にメンバーも増えて移転することになったのですが、地域の反対に合い、職員も離職しました。その厳しい状況を目の当たりにし、スタッフとして中に入ろうと決めたのがきっかけです。結局、作業所は93年に移転が叶い、「はづき福祉会」として法人化し、私が代表を務めるに至りました。

——「ふれあいの里」でもコンフリクト問題に携わったそうですね。その経緯は？

94年、大阪市が精神障害者社会復帰施設当時として初の法定施設の計画を公表したところ、反対する署名が5000人以上も集まり、電柱約300本に絶対反対！のビラが貼られるという激しい反対運動が起きました。反対の主旨は「子ども達に悪影響」、「地価が下がる」など、地域住民に重大な影響を与えるというものです。2年に渡り行政が説明会を開催し、訪問説明も試みましたが、計画はとん挫。運営側から私にも手伝って欲しいと声が掛ったのです。

直接受理する電話相談ではありませんでした。24時間365日、関係者から直接相談を受けることのできる窓口を設けることになり、精神科病院の院長や看護師なども加わって、それぞれの専門的な視点から相談マニュアルを作成しました。その後、状況によって救急医療に結び付けることのできるトリージ機能が付加するために、その日、どこの病院に空きベッドがあるのか等がわかるようシステム化、これにより、必要な時に必要な医療を受けられる体制づくりの第一歩になりました。

——そうした様々な事案に取り組まれている中で、精神障がい者の捉えられ方をどのようにお考えですか？

世界的に見ると、精神障がい者を取り巻く日本の環境整備はかなり遅れています。少しずつ法律は整備されており、障がい者は病者という位置づけから生活者として認識されてきてはいますが、今年7月の相模原殺傷事件のようなことが起こると、また状況が後退していくのではと危惧の念を抱くこともありますね。

私達一人ひとり、能力も価値観も違い、それを皆で補い認め合いながら生きています。そうした繋がりをどこかで見出しながら生活することが大切であり、そのために施設があるのです。私が10年以上前に相談に乗った人で、今でも3カ月に1度は必ず電話をしてくる人がいます。元気ですと。それだけのことで、その繋がりがあ

●水本誠一（みずもと・せいいち） 東海大学海洋学部 海洋科学科卒業。理学士（精神保健福祉士）。2008年より現職。大阪市精神保健福祉啓発事業企画提案業者選定委員会委員。大阪府精神医療審査会委員。阪神子どもの虐待防止ネットワーク「ほっと」運営委員。社会福祉法人はづき福祉会 理事長。社会福祉法人尼崎あすなろ福祉会 理事長。社会福祉法人精神障害者社会復帰促進協会 評議員。共著に『ソーシャルワーカーの仕事（朱鷺書房）』など。社会活動として、国連防災会議（神戸）Welcome partyやのじき兵庫大会（全国障害者スポーツ大会）開・閉会式典、サグラダファミリア教会での演奏会等知的障がいのある人たちとの音楽活動（1982～）。



心に病気を抱える人もそうでない人も、
孤立してしまわない社会環境作りが必要なのです。



・パレセロナ・サグラダファミリア教会地下礼拝堂で演奏(2004年)



・「楽団あぶあぶあ&ミュージカルチームLOVE 東京公演Vol.2」
(すみだトリフォニーホール・2006年)



・「楽団あぶあぶあ&ミュージカルチームLOVE ニューヨークコンサート」
(ニューヨーク・トライベッカ パフォーミングアーツセンター・2006年)

とによって、彼は安心して生活していけるのかもしれない。心に病気を抱える人もそうでない人も、孤立してしまわない社会環境作りが必要なのです。

—— 学生には何を学んで欲しいですか？

自分の中にも偏見があると知ることから始めて欲しいですね。実習で精神科病院と障害福祉サービス事業所に行きますが、現場へ入った際の「気持ち」を尋ねると、口ごもったり、怖かったと言ったりします。「その時、何を感じたのか？」自分に正直になり、たくさんさんの感情があることを知ってからでないとい先へは進めません。精神保健福祉士という仕事は感情が入り過ぎてあつさりし過ぎて難しい。正直であることの大切さを知っている人は、そのバランスをうまく取ることができる気がします。そこへ導き、人間の在り方を一緒に考えていきたいと思っています。

●音楽を通して知的障がい者と交流

—— 先生は精神保健福祉士として活動される一方で、水本誠の名で音楽による社会活動もされています。拠点となる「楽団あぶあぶあ」に参加するきっかけとは？

「楽団あぶあぶあ」は1982年、神戸市に住むダウン症や自閉傾向の青年達5人が中心となり結成されました。姉が呼びかけ人として、最初の演奏会の手伝いに駆り出されたのが参加のきっかけです。10年間、手伝いを続ける中

児島まで、全国各地で上映会が開催され、延べ2万人以上の方が観に来てくたさいました。

—— 彼等の活動が多くの人々の感動や共感を呼ぶ理由は何だと思えますか？

人それぞれ、感じる場面は違うと思いますが、「与えられた通りではなく、自分達で作っている」という彼等の自負と出会いへの感謝の気持ち、どこかに表れ、音楽としてメッセージを発しているのではないのでしょうか。

また、私を含め、スタッフが楽しんでいることも関係しているかもしれません。音楽を通して生まれた繋がりや、彼等との関わりが楽しい。皆が背伸びせずに接していることが、今に繋がっているのだと思います。

—— 今後の展望をお聞かせください。

楽団は最高齢者が50代中盤にさしかかり、体力面などからも、いつまで続けられるかというところです。誰が欠

で、メンバーの真摯な演奏に胸を打たれ、彼らが持つ技術をうまく導けるオリジナル曲を作ろうと思いつきました。当時、24時間テレビに何度か出演したこともあり加入希望者が多く、「それならミュージカルチームも作ろう」という代表の大胆な提案のもと、35人編成の「LOVE」を立ち上げました。こちらも私が楽曲を担当したので、ピアノ伴奏することになったんですよ笑。

—— 公演回数200回、観客数延べ15万人。海外公演や映画化など、その活動は躍進を続けていますね。

様々な場で演奏させてもらう中で「今が一番いい時期」と、代表がニューヨーク公演を提案し、各方面に声をかけて寄付を募りました。全て自前の開催であり、家族を含め1000人程で渡米するため、すぐにという訳にはいきませんでした。インターシップでニューヨーク・ジャージー州立ラマボ大学と交流をもち、様々な紹介を通して2000年にラマボ大学とトライベッカ・パフォーミングアーツセンターでの公演が実現しました。会場は満席、最後は総立ち。メンバーはケロッツとして笑っていました(笑)。素晴らしい経験でした。

映画「あぶあぶあの奇跡」は、岡山で開催された障がい者の祭典で知り合った映画監督・船津一氏が、18年間に渡り撮影をし、2008年に完成しました。プレス発表会で兵庫県知事の井戸敏三氏が後援会長になろうと心強い声をあげてくださり、北海道から鹿



映画「あぶあぶあの奇跡」DVD。「あぶあぶあ」という名称は、代表のひがしのようこさんが子どもの頃「ぶあぶあ」と唄を歌っていたことから、メンバーと相談して付けられた。

けても難しいですが、お母さんたちも含めメンバーの人たちの強い希望で、可能な限りは続けていきます。例年、数百人の方が来場される定期演奏会は、今年で35回目を迎えます。大ホールでの開催は厳しくなるかもしれませんが、今後はより楽しみなが、自分達でライブハウスなどを借り、食事でもしながら楽なスタイルで開催できるよう、方向性を変えて続けていければと考えています。

楽団あぶあぶあ

1982年4月、神戸市に住むダウン症や自閉傾向の青年達が中心になって結成。養護学校卒業後の人生の楽しみにと、初給料で楽器を購入し、本格的な演奏を目指して稽古を始める。メンバーは全員就労しており、クリーニング工場や洋菓子工場、公共施設の清掃業務に従事。主な演奏者は知的障がいをもつ5人で、障害をもたない5人の仲間も加入している。演奏楽器はマリンバ、ピアノ、アコーディオン、キーボード、ドラム、パーカッションなど。楽団の構成は、演奏者と年間10回程度の各地でのコンサート活動を支える音響、照明、舞台スタッフ10人。そのほか会場設営など必要に応じて手伝う友人達は50人を超える。



・「楽団あぶあぶあ&ミュージカルチームLOVE 東京公演Vol.2」(2006年)

自分と向き合い、歌で表現する

「オペラ歌手を目指し、新生活へ」

日本初の劇場附属研修機関「新国立劇場オペラ研修所（旧文化庁オペラ研修所）。1998年、プロのオペラ歌手を目指す人のために開設され、音楽、演技、語学の3本柱を中心に、世界的レベルの講師陣による充実したレッスンが行われている。昨年10月、十合翔子さんは4年生でその入所試験に挑み、見事合格。舞台人になる道を選んだいきさつや、研修所生活について話を聞いた。

●新国立劇場オペラ研修所 研修生
十合 翔子 さん——SOGO Shoko

●ミュージカルからクラシック音楽へ
「自分にとって、より難しい方向へ進みたくなったんです」。宝塚音楽学校の本科在学中に神戸女学院大学へ進路変更した十合さん。もともとミュージカ

ルが好きで勉強を続けるうちに、クラシックを歌っている時の心と身体の喜びに気付く、音楽を基礎から学びたい一心で転校を決意したという。そんな中、「前向きなパワーで上に引き上げてくださる先生」として神戸女学院大学

の斉藤言子先生の存在を知ったのが大きな転機となった。

神戸女学院大学に入ってから「こことは、「少人数制なのでじっくり見ても良かったこと。そして、何より大学内の空気が好きでした」という。岡田山の

自然に包まれた趣のある校舎は、表現や感性を深める場であり、情景を歌う際の助けとなった。また、音楽学科以外の授業が受けられるのも面白かった。「西洋美術史など、当時はオペラと直接繋がりはないように思えたことも、後

になってリンクしてきました。学んだことが経験として役立っています」。

●音楽の世界で生きて行く

今はとにかく柔軟に、素直に。いっぱいアンテナを張って、知識をシャワーのように浴び、吸収したいです。

4年生になりクラブファンタジー海外研修助成金を受けオーストリアのモーツァルトウム音楽大学夏期国際アカデミーに参加。「日々の練習で知らぬ間に力が入っていた発声も、違う環境で指摘されると新鮮さからか腑に落ちて修正できた。レッスンも聴講できたので、様々なアプローチ法を知り、自分との違いなど多くすることに気付かされました。年齢を重ねることに声域が成熟していくとされるメゾソプラノ。変化していく自分の声を客観的に聴き、時期に合った選曲をすることの大切さを感じるようになった。

また、海外の先生や同世代の学生と交流し、音楽は世界共通であり、言語に関係なく通じ合えることも実感でき



個人レッスンを受ける十合さん

た。「留学前は進路に迷いがあり、教職の道へ進むことも考えていましたが、もっと音楽を続けたい！と、気持ちが固まりました。

帰国後、斉藤先生にそのことを伝え、と「音楽を続けるのなら、受験してみたら？」と新国立劇場オペラ研修所の資料を渡された。存在は知っていたが、殆どの人が大学院卒業後に受験する。興味はありつつも自分にはまだ早いと躊躇していた所、「受けるのは自由よ」という言葉でリラックスして受験に挑めたという。

●後悔なく歌い、演じる

その後、十合さんは3次試験まで見事にパスし、若くして研修所に入所。現在は、月曜から金曜の10時から18時まで、個人レッスンはじめ、バレエや日本舞踊等の演技・身体系講座や英語やイタリア語の語学講座などを学んでいる。既に7月には『ジャンニ・スキッキ』で初舞台を踏み、来年2月には『コジ・ファン・トゥッテ』でドラペッラ役を演じる。

「技術も経験もないので、動き方一つにしても難しい。全身全霊で演じてしまつて体力がもたなかったり、歌唱面に影響が出たり。でも、演じている時は自分では無くなるので、ものすごく楽しいです」。常に心に留めているのは学生時代に斉藤先生から言われた言葉「舞台は瞬間芸術だから、反省するのはよいけれど後悔しても間に合わない」。失敗した

時もどん底までは凹まずに「後悔せずに反省しよう」と、自分に言い聞かせる。学生時代からの変化を聞くと、「以前から歌詞の意味を感じながら歌っていたけれど、楽譜をより深く読み込むようになった」という。役柄の性格を考えたり、音楽が始まるタイミングの必然性を追求したり。細部にまで意識を巡らせると、様々な気づきがあり、皆が何年も同じ曲に挑戦する理由がわかってきた。

●自分と向き合い、可能性を広げる

今、十合さんが特に苦労していることは他の研修生と逆だという。「私は子どもの頃からバレエや日本舞踊を習っていたので身体系講座は楽しくてストレス解消になっています。一方で、語学は基礎から身につける領域。今年は英語とイタリア語。来年は選択でドイツ語も増えます。演目に合わせた言語の発音指導等もあり、周囲との経験や知識の差を感じますが、真摯に取り組んでいれば、だからダメだと考える人はおらず大変有難いです」。

来年はイタリアオペラ界の最高峰とされるスカラ座への研修も控えている。「どれだけ自分と向き合えるかが大切だと思うので、むしろ厳しさを期待します。今はとにかく柔軟に、素直に。いっぱいアンテナを張って、知識をシャワーのように浴び、吸収したいです」。新しい世界へ一歩を踏み出した十合さん。その可能性は、まだまだ広がっていく。

●十合翔子(そごう・しょうこ)
2016年 神戸女学院大学 音楽学部 音楽学科 声楽専攻卒業。2015年10月、東京の新国立劇場オペラ研修所第19期選考試験で、応募者40人中の5人に選ばれ入所。第86回読売新人演奏会出演。第69回全日本学生音楽コンクール大阪大会声楽部門大学生の部入選。第16回大阪国際音楽コンクール声楽部門オペラコース Age-Uでエスポアール賞受賞。



私はお菓子よりもおにぎりの方が喜ばれた焼け跡世代の人間です。昭和20年に太平洋戦争が終わり、配給制だった砂糖や小麦粉の統制が廃止されたのは27年のこと。お菓子は贅沢とされてきましたが、人間の尊厳を保つものであり、だからこそ上の世代の方達は全国菓子大博覧会を開催してきたのだと思います。店の人達にもよく言うのですが、私達のお店の前とお通りになるのはハッピーな方ばかりとは限りません。私は、そうした方達が口にされた際、ほんの一瞬でも幸せだなと思っていただけるお菓子を作りたいとずっと考えてまいりました。

Interview インタビュー



株式会社 神戸風月堂 代表取締役会長
下村 俊子 氏

口になさる人が幸せを感じるお菓子を

私の母 吉川冬季子は、高等部乙類第48回生です。私達を育ててくださった母校から、お菓子の共同開発をするというご縁をいただいたのは、とても嬉しいことです。しかも、ただ作るのではなく、若い学生さん達が専門的な研究をして商品化なさるというということとでござりますよ。

私も藏中先生の勉強会に寄せていただいたのですが、大和橘は垂仁天皇の時代、忠臣の田道間守が不老長寿の妙薬として常世の国から大和奈良に持ち帰ったとされる果実「非時香菓」。田道間守はお菓子の神様として今に伝えられています。こうした大和橘に纏わる物語は無理に作ったものではなく、自然に生まれてきたもの。それを材料として使い、学生さん達の論文作成のお役にも立てるとは大変光栄でございます。商品化に向け、今後も心して関わらせていただこうと思っています。

■下村俊子(しもむら・としこ) 兵庫県生まれ。1956年神戸女学院中高部卒業。1959年頤栄短期大学保育専攻科卒業。1897年に創業した株式会社 神戸風月堂の中で育ち、歳時記を礎とした御菓子の創作に貢献。現在、代表取締役会長を務める。

●神戸女学院大学「大和橘」菓子プロジェクト2016

日本固有の柑橘「大和橘」を使った菓子づくり ●神戸風月堂と高岡ゼミのコラボレーション

今年1月より、人間科学部環境・バイオサイエンス学科の高岡素子ゼミの学生18人と神戸風月堂がコラボレーションし、日本原産の柑橘類「大和橘」を用いた菓子の開発に取り組んでいる。「大和橘」は国内最古の唯一の固有種で、絶滅危惧種にも指定される希少なものである。その機能性を科学的に明らかにすると共に、歴史的背景等も学び、ストーリー性のある菓子の創作、商品化を目指す。神戸女学院の卒業生でもある神戸風月堂の下村会長、「橘街道プロジェクト」のメンバーでもある神戸風月堂の日崎執行役員、開発の指揮を執った高岡先生、古典文学の橘を読み解く勉強会を開催した藏中先生、ゼミ生の田中さん、安川さんに話を聞いた。



日本原産の柑橘類「大和橘」

- 株式会社 神戸風月堂 代表取締役会長
下村 俊子 さん
- 株式会社 神戸風月堂 本店営業部 執行役員
日崎 隆広 さん
- 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科
高岡 素子 教授
- 文学部 総合文化学科
藏中 さやか 教授
- 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 4年生
田中 さん
- 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 4年生
安川 さん



〈座談会〉リベラルアーツを体現するプロジェクトとして

プロジェクトの目的と経緯は？

高岡 大和橘の機能性をエビデンスとして提示し、食用に生かすことが目的です。昔から馴染み深いお菓子メーカー、神戸風月堂さんと共同開発を申し入れたところ、「橘街道プロジェクト」に携わる日崎さんから大和橘を使つてはどうでしょうかとご提案いただきました。昨年の卒業研究で摘果みかんを扱い、柑橘類は機能性の高い食材だなと注目していたので、とてもよいタイミングでした。



日崎 ストーリー性のあるお菓子と考えると、最初に大和橘の歴史的背景を知るステディワークとして皆さんを奈良にお連れしました。平城遷都の際に作られた道のひとつに「中ツ道」——別名「橘街道」があり、現在、その旧街道沿いに橘を植樹する活動を始めています。その様子をご覧ください。古墳巡りもしました。



田中 桃の節句で飾るくらいしか知らなかったのですが、勉強になりました。

大和橘についてどのような研究を？

田中 大和橘には抗酸化性の強い物質がたくさん入っており、それを調べるための実験を行っています。

安川 静岡県産、山口県産、奈良県産……と、産地による比較をしているんです。今は、加熱により抗酸化性がどのくらい減少するのかを調べているところですよ。

高岡 何百個もの橘を剥き、皮と実、種、筋まで分けて分析しています。1つの果実に10個以上もの種があるため、実験材料としてはとても手ごわいです(笑)。

お菓子開発の進捗はいかがですか？

日崎 学生さんから複数の商品アイデアをいただいております。現在はクッキー、パウンドケーキ、錦玉羹の3種類を進めています。今日お持ちしたクッキーの試作品には橘のジャムを使用しています。



▲橘のジャムを使用した試作品のクッキー

実際に見て親しみも湧き、果実の香りもよくて、成分分析への意欲が高まりました。

藏中先生による古典の勉強会もあったそうですね。



藏中 橘は古典の世界ではとてもメジャーな植物です。古事記には垂仁天皇の条に橘がもたらされた時の物語があり、日本書紀にも非時香菓として同様の話が載っています。万葉集からは当時の受容の様子が窺え、枕草子や和歌集にも登場します。それらの文献紹介と併せて、平安時代になると果実や花に加えての香りも好まれたことなどをレクチャーしました。



常世の国から大和奈良に橘を持ち帰ったとされる田道間守(『前賢故実』より)

安川 様々な作品で扱われていて驚きました。高価で素晴らしい果実だという文献がある一方で、日常のおやつとしても食べられていたのは意外でした。

日崎 魏志倭人伝には、大陸系の人々は橘を香辛料として用いており、日本で滋味(香辛料)として使われていないのは橘のよさを知らないのだからという一文がありますね。



田中 最初に高岡先生と作ったジャムは、苦くて食べられませんでした。どうすれば使えるのかと悩んでいたけれど、プロの方の手により美味しくなった！

日崎 橘だけでは苦いですが、梅酒に数カ月漬けて、温州蜜柑なども加えて手練りし、まろやかにしました。型は検討中で、橘の五弁花と女学院さんの校章であるクロバーを模りたいと考えています。

安川 パッケージもゼミ生皆がこだわりたいポイントです。可愛くて親しみやすく、手に取りやすいものにした。大和橘のよさを上手にお客様へ伝えられる商品になればいいなと思います。



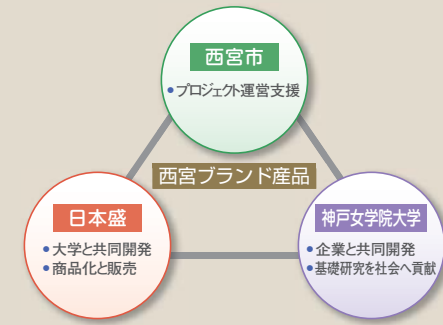
高岡 これまでは実験して成果を出すという一方でも取り組んできましたが、今回は藏中先生、日崎さんにご参加いただき、神戸女学院大学が標榜するリベラルアーツ教育を体現できる開発となりました。古典や歴史が苦手な学生でも、一度理系のフィルターを通してなら、スッと知識が入る。学生と共に私も成長することができ、大変感謝しています。

■橘街道プロジェクト(たちばなネット)

「大和橘」「橘街道」を再興し、橘のもつ力を生かした地域の活性化や各地との交流を広げるプロジェクト。地域の文化、芸術、産業の発展に尽くし、日本を元気にすることを目的とする。

産学官連携による西宮ブランド産品創造事業に環境・バイオサイエンス学科が参加 西宮市、地元企業と共に、西宮ブランド産品を創出する

▼産学官連携による西宮ブランド産品創造事業



環境・バイオサイエンス学科の高岡素子ゼミの3年生12人と日本盛が共同し、発酵食品を用いた商品開発を進めている。これは、西宮市が今年度より始めた「産学官連携による西宮ブランド産品創造事業」に採択された事業であり、本学が蓄積してきた基礎研究を社会へ発信、貢献することを目的とする。現在、商品の詳細は非公開とされているが、来年2月にはプロトタイプが完成する予定。開発の指揮を執る高岡先生に話を聞いた。



●人間科学部 環境・バイオサイエンス学科
高岡 素子 教授

この度の日本盛との共同開発は西宮市の大学連携課からのご紹介で始動しました。以前から発酵食品について研究を進めているので、大変興味深い取り組みです。

企業との連携により、学生は社会の仕組み、マナー、ルール等、貴重な経験を得ることが出来ます。また、企業の研究ツールを教わることで視野が広がり、商品化に直結していることで研究のモチベーションが上がる。実験は地味な作業の繰り返しですが、一人ひとりが責任を自覚し、研究室が一丸となって取り組んでいます。さらに、行政との連携により、企業と大学、双方の利点や得意なことを、客観的な目で見えてくるといえるというメリットもあります。

11月には会社見学や打ち合わせを行い、基礎研究も継続中です。年内は商品を使った応用実験を行い、1月末までは商品化に向けての試作品を作ります。開発したものをどのように応用し、販売していくか。日本盛の研究スタッフの方は男性が多数なので、目線の異なる学生達から斬新なアイデアが出ることに期待が寄せられています。

今回の連携事業により、学生が実験の面白さや辛さを体感し、その先にある商品化という、これまでにない達成感を味わえることを願っています。

産学官で 魅力的なまちづくり



●西宮市 大学連携課 課長
岡崎 州祐 さん

西宮市は多くの特色ある大学・短期大学が立地する「大学のまち」です。大学連携課は、地域、行政、産業から大学との連携要請を受けた際、連携先の紹介等を行い、その連携や協働が魅力的なまちづくりに繋がることを目指しています。この度の新西宮ヨットハーバーとの連携をはじめ、神戸女学院大学とは西宮ブランド産品創造事業、西宮市生涯学習大学「宮水学園」等、様々な連携事業に取り組まさせていただいております。リベラルアーツ&サイエンスの精神を大切にされている神戸女学院大学との連携は、西宮市にとって素晴らしいものを生み出す大きな可能性を秘めていると期待しています。



▲英語版ウェブページの応募作品

通訳・翻訳プログラムの学生達が地域企業の英語版ウェブページを作成 通訳・翻訳の知識とスキルを、実社会に役立てる

通訳・翻訳プログラムを履修する2・3・4年生の学生約70人が「新西宮ヨットハーバー様 英語版ビジター用ページ作成コンペ」に参加し、優勝作品は今年度中に運用が開始される。これは西宮市大学連携課を介して進められた連携事業で、兵庫県と西宮市が共に出資する新西宮ヨットハーバーの英語版ウェブページを作成するというもの。市、事業体と大学の連携を図り、コンペの指揮を執った中村先生に話を聞いた。



●文学部 英文学科
中村 昌弘 准教授

国外のお客様による新西宮ヨットハーバーのビジター利用を促進するために英語版ウェブページを作成する、そして、本学の通訳・翻訳プログラム履修生にサービス・ラーニングの機会を与えることが、今回の事業目的です。学生は英語圏のウェブページの構成や掲載情報の種類、顔出表現等を取り入れ、そこから得た結果を元に各自でウェブページの文言を考え、デザインし、相互評価投票により上位作品を選出しました。自らのプランに従い作業を進める能動的な力が養われたと思います。

通訳・翻訳プログラムが目指すのは、学んだ知識やスキルを社会に役立つものにして完成させる完成型教育です。今後は、行政に限らず地域企業や住民の方からの要望も受けられるよう、学生ボランティア通訳・翻訳サービスの構築を進め、専用ウェブサイトの作成等を手掛けていく予定です。

社会連携 ●学内にコンビニエンスストアがオープン！

学生が携わる、新しい形のコンビニエンスストア



▲プロジェクトメンバー制作のオープン告知チラシ

4月5日、文学部2号館1階にコンビニエンスストア「セブン-イレブン AIM神戸女学院大学店」がオープンした。女子大内にセブンイレブンが店舗するのは、全国で2店舗目。オープン初日には学長、学生自治会「プロジェクト7」の代表、店長によるテーブルカットや抽選会などが行われ、華々しい開店を迎えた。開店にあたっては、プロジェクト7の学生7人が、学生からの要望を反映しつつアイデアを出し合い、店長らと共に店舗づくりを推進。今後も「自分達のお店」という意識で、運営やイベント開催に携わっていく。そのプロジェクト7の代表である大當さん、日向智哉店長、三枝卓馬総務課職員に、開店準備やオープン後の反響などについて話を聞いた。



●神戸女学院 総務課
三枝 卓馬



●AIM神戸女学院大学店 店長
日向 智哉 さん



●文学部 総合文化学科 3年生
大當 さん

- ▼学生自治会「プロジェクト7」
- 文学部 英文学科 4年生 坂井 さん
 - 文学部 総合文化学科 4年生 川村 さん
 - 文学部 総合文化学科 4年生 田中 さん
 - 人間科学部 心理・行動科学科 4年生 上林 さん
 - 人間科学部 心理・行動科学科 4年生 重松 さん
 - 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 3年生 上村 さん

学内にコンビニを導入した目的は？

三枝 学生アンケートでは5年以上前から導入の要望がありました。大学の将来計画委員会において重点項目の一つとして「キャンパスアメニティ向上」が提起された事もあり、その一環として導入が決定しました。

準備はどのように進めましたか？
大當 三枝さんからお声掛けがあり、1月末から6回程ミーティングをして進



▲オープン当日の様子。
Instagram ボードで記念撮影



大いに盛り上がった「プロジェクト7」企画の抽選会

めしました。給湯器や電子レンジ、イートインスペースを残して欲しいという学生からの声を反映してもらい、私達からは女学院グッズを置く提案をしました。オープニングイベントの内容についてはプロジェクト7全員でアイデアを出し合いました。テーブルカットやくじ引き、景品用のオリジナル紙袋、ウェルカムボード作成、Instagramボードの準備などを、各自で手配していきました。三枝 プロジェクトメンバーがチラシをデザインしてくれたので、学内に掲示するとともに全学生に配布しました。

ゼリーやクリアファイルなどの女学院グッズも好評で、メインコーナーに移動しました。女子大内への出店は全国でも2例しかなく、私も初めての経験。セブンイレブンをとしても新分野への挑戦なので、日々、試行錯誤しています。

オープン当日の反響は？
日向 おかげさまで、約800人もの方々にお越しいただきました。プロジェクト7による抽選会が大変な盛り上がりを見せ、景品や開店祝いのお菓子もあつという間に無くなって追加したほどです。

大當 学生にも好評です。これまではお昼時間を過ぎると学外へ買い物に出ていたけれど、今はいつでも買えるという安心感があります。淹れたてコーヒーが飲めるようになったのも嬉しいです。

その後の運営や利用状況は？
日向 開店からの4か月間をみると、小分けのチョコレートやクッキー類の販売が好調です。「美容系」・「アミノ酸

日向 当面の問題は、店内が常に混雑していること。1時間の来店数は最高記録で287人。ピーク時はレジに70人程の行列ができるので、もっとスペースを広げないと。現在、本部にレジの増設依頼を出し、解決策を進めています。

三枝 イートインスペースの拡張など、まだ実現していない要望もあり、そこも一緒に考えていきたいですね。

店長からメッセージをお願いします。
日向 学生さんや教職員の方のためにある店舗なので、定期的に意見交流の場を設け、様々なイベントを企画・開催したいと思っています。学内イベント等に利用していただくのも大歓迎ですよ。



●神戸女学院大学オリジナル商品

● 学生ノートテイクによる聴覚障がい者支援

聴覚障がい者に寄り添い 自らの見聞も広める

ノートテイクとは、聴覚障がい者に対して要約筆記を行うことで、話し手の言葉やその場の音情報を聞き取って筆記する同時通訳のようなもの。神戸女学院大学では、2015年度の聴覚障がいのある学生2人の入学を機にノートテイクの募集を行っている。現在の登録人数は学生44人、社会人1人の計45人で、学生生活支援センターによる講習会を受講後、アルバイトとして授業や式典、ガイダンス等で活躍している。ノートテイク歴半年の浅野さん、1年半の石原さんに話を聞いた。



▲授業を指導する先生(手前)と受講生(中2人)。両サイドにノートテイクが付きサポートする。本来は、受講生一人に対し二人のノートテイクがサポートする

ノートテイクを通じて
聴覚障がい者との壁が無くなりました



●人間科学部心理・行動科学科 3年生
石原 さん

初めてノートテイクしたのは物販売の日。とても緊張しましたが、その利用者は口話ができる人だったので、すぐに仲良くなることができました。活動は週に5〜7コマのペース。英語や朝鮮語、総合文化学科のゼミなど様々な授業があるので、ペアの相手と打ち合わせをし、その授業に合った方法を考えています。例えば、「コミュニケーション」中心の英語の授業では、和訳はせず、英語のままを書く。わかりやすいレジュメがある授業では、レジュメを指で示しながら補足だけをノートテイクします。大変なのはネイティブの英語。全て

を聞き取れているという確認がないので、繰り返してもらったり先生にも協力いただいています。ノートテイクをしてよかったのは、聴覚障がい者との壁が無くなったこと。伝わらない場合は口話やジェスチャー、簡単な手話も出来るようになりました。また、様々な授業を受けるため、私自身も幅広い知識を得ていると感じます。今は、より円滑に意思疎通ができるよう、指文字や手話を勉強している最中です。周りへの配慮も出来るようになってきたので、それらを将来へ生かしたいと思っています。

要約能力が高まり
話の本筋を捉えられるようになりました



●人間科学部
環境・バイオサイエンス学科 3年生
浅野 さん

人の役に立てることに、幅広い授業に参加できることに魅力を感じ、ノートテイクを始めました。活動は週に5コマ程度。慣れてきたのは5回目を過ぎた頃からです。ノートテイクは2人1組で行います。最初は授業のスピードについていけず、ペアを組んだ相手にたくさん助けってもらっていましたが、徐々に、わかりやすく簡潔に、でも情報量は減らさないよう、整理できるようになりました。利用学生はノートテイクの書き取りを頼りにしています。その内容で自分の勉強をされるわけですから、責任の重さを感じます。ノートテイクを始めた

ことで、自分自身の要約能力が高まり、授業で話の本筋を捉えられるようになりました。自分では興味がないと思って取らなかつた授業も、聞いてみると面白く、たくさん刺激を受けています。ノートテイクの利用学生やペアを組んだノートテイクとも友達になり、学生や学科を超えたネットワークを築くことができたのも、やってみてよかったことのひとつです。今後は学外でも、困っている人がいたら何か出来ることはないか尋ねようと思います。そして、人の話や社会のトピック等についても、本筋をしっかり捉えられるようになりたいと思います。

No Photo

●文学部英文学科 4年生
花田 さん

チャンスは逃さず、 何でもチャレンジ

●派遣留学でロックフォード大学の学位を取得

神戸女学院大学とアメリカ・イリノイ州のロックフォード大学は、同じリベラル・アーツ・カレッジとして1992年に姉妹校関係を結んで以来、友好を深めてきた。花田さんは、2年生、3年生のそれぞれ9カ月間、派遣留学生としてロックフォード大学に在籍し、今年5月、見事、その学位を取得した。来年3月には神戸女学院大学の卒業を控えており、ダブルディグリー取得となる可能性が高い。「まさか自分がアメリカの大学を卒業するとは思っていませんでした」という花田さんに話を聞いた。

——留学のきっかけは？

留学生として神戸女学院大学に来たロックフォード大学の学生や先生と仲良くなり、様々な話を聞いて行きたくなりました。でも、派遣留学のスコア基準も足りなくて。女学院の先生に促され、国際交流センターに相談してみたら、「今から努力すれば、行ける可能性がある」と言ってもらえ、それをモチベーションに勉強し、2年生の8月に渡米することができました。

ロックフォード大学の人は皆フレンドリー。学生や教職員、カフェテリアのスタッフ、お掃除の方までが、会うと必ず声をかけてくれ、全員が家族のような環境で過ごしました。

——現地で苦労したことは？

英語力です。最初は何がわからないのかもわからないほどで、ただ席に座っているだけでした。テキストを何度読んでもわからず、悔しくて号泣したことも。でも、泣いたらすっきりした。その時から人の力を借りることを覚えました。徹底的に予習をし、不明なところ全てに付箋を貼ってノートにリストアップ。先生やクラスメートに質問し、わかるまで教えてもらいました。英文専攻の学生



バイトが文法等をみてるライティングセンターや、数学専攻の学生が常駐するマストラボに通い、チューター制度も利用してサポートを受けまし



No Photo

た。時間の使い方もうまくなくなりました。学期が終わる頃にはもっと学びたくなつてKobe College Corporationに相談し、翌年も留学しました。

——現地で卒業を意識しましたか？

2度目の留学の際、双方の大学の授業でマッチングするものを洗い出し、取り方次第で卒業できるとわかりました。専攻以外で卒業に必要なのは、数学、理科、体育の単位だったので、解剖学やスキューバダイビングの授業を取りました。解剖学では豚の解剖をしたんです！卒業を意識しなければ学ぶことはなかつたので貴重な経験でした。スキューバーは課外授業なので車が必要でしたが、その場で友達を作って乗せてもらい、結局ずっと一緒に通ってライセンスも取得しました。

授業に限らず、興味があつたり、声をかけてもらつたり、チャンスが訪れた時は、どんなことでも参加しました。行か

ずに後悔するよりも、行って後悔の方がよいです。その甲斐もあつて、最終的に成績も上がり、ロックフォード大学で成績が良かった学生に贈られる「Macleish Scholar」という賞を受賞して卒業することができました。

——一番の思い出を教えてください。

2年連続で春休みに参加したTablariat for Humanityという国際支援団体のボランティア活動です。火事で家を失った家族のために家を建てたんです。自分の時間を使うことで人の暮らしをよく出来る。しかも、家を建てるという貴重な経験もでき、本当によかったです。

——現地で卒業式はいかがでしたか？

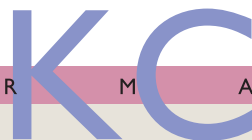
卒業式にはホストファミリーも来てくれ、3年前に彼らに出会わなければ、ここには立っていないかと思うと胸に溢れるものがありました。

先生や友達、仕事や旅行で日本に来る予定も聞いています。様々な繋がりが出来たので、今後この縁をどう生かしていくかが大切だと思っています。

No Photo

No Photo





講演会・公開講座・コンサートなど

音楽学部演奏会・公演

- 音の響宴 vol.10
日 時：11月7日(月)
会 場：宝塚ベガ・ホール
入場料：1,000円
- 定期演奏会 ―メサイア―
日 時：12月2日(金)
会 場：兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール
入場料：2,000円(全席指定)
- 卒業演奏会
2017年2月20日(月)～22日(水)
会 場：神戸女学院講堂
入場料：無料
- 舞踊専攻第11回公演
2017年3月8日(水) 19時開演(予定)
2017年3月9日(木) 18時開演(予定)
会 場：新神戸オリエンタル劇場
入場料：2,000円

問い合わせ：音楽学部事務室 TEL 0798-51-8550
FAX 0798-51-8551 E-mail: music@mail.kobe-c.ac.jp

アウトリーチ・センターイベント

- 子どものためのクリスマス・コンサート
～音楽からの贈り物～
日 時：12月10日(土)
第1部：11:00～12:00(10:30開場) 年齢制限なし
第2部：15:30～16:30(15:00開場) 小学生以上対象
場 所：神戸女学院講堂
出 演：内藤雪子・北野真理子・田中奈津紀(ピアノ)
清水裕子・米澤明日香(声楽)
土井美佳(ヴァイオリン)
参加費用：大人500円、子ども(19歳以下)300円 申込み要
- 15周年記念特別コンサート
子どものためのスペシャル・コンサート
～室内オーケストラで聴く動物と音楽～
日 時：2017年2月25日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
※3歳未満のお子様は入場できません
場 所：神戸女学院講堂
出 演：15周年記念スペシャル室内オーケストラ
指 揮：ザビエル・ラック
参加費用：大人1,000円、子ども(19歳以下)500円 申込み要
問い合わせ：音楽学部アウトリーチ・センター
TEL 0798-51-8584 FAX 0798-51-8551
E-mail: concertfch@mail.kobe-c.ac.jp

金曜公開プログラム

- キャロルを歌おう♪
日 時：12月9日(金)
場 所：神戸女学院講堂
指 導：斎藤言子(学長・音楽学部教授)
- クリスマスオルガンコンサート
日 時：12月23日(金)
場 所：神戸女学院講堂
出 演：西山聡子(学院オルガニスト) 追中宏美(オルガニスト)
- 新年礼拝・総合文化学科主催特別講演会
日 時：2017年1月13日(金)
場 所：神戸女学院講堂
説 教：中野敬一(大学チャプレン)
問い合わせ：チャプレン室 TEL 0798-51-8502

講演会

- 総合文化学科主催特別講演会
日 時：2017年1月13日(金) 新年礼拝終了後
場 所：神戸女学院 講堂
「発酵食品のある暮らし ―日本とオーストラリア―(仮題)」
講 師：杉本節子氏(料理研究家、エッセイスト)、
前田江利子(本学非常勤講師)
- Prof. Marianne Noble 講演会
"Sympathy and Human Contact in the Poetry of Emily Dickinson"
日 時：11月3日(木・祝)に終了しました

高校生等参加イベント

- オープンキャンパス
日 時：12月11日(日)、2017年3月20日(月・祝) 10:00～15:00
内 容：模擬講義、キャンパスツアー、各種相談コーナー他
問い合わせ：入学センター TEL 0798-51-8543

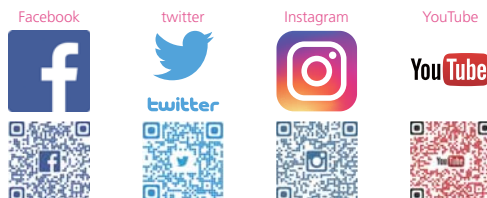
めぐみ会主催行事

めぐみ公開講座

- 2016アートセミナー
「イメージの探偵術入門(全2回)」
第1回 11月28日(月) 13:00～14:30
レンブラント《バテシバ》～不義の女性の心のドラマ
第2回 12月5日(月) 13:00～14:30
ジョルジョーネ《嵐(テンペスタ)》～ヴェネツィアの巨匠が描いた謎の風景
講 師：大阪大学文学部研究科教授、神戸女学院大学文学部非常勤講師
岡田裕成氏
会 場：神戸女学院めぐみ会館
受講料：各回1,000円(学生は無料) ※要予約(HPも可)
「敬虔と官能のルネサンス：ティツィアーノとクラナッハ」
日 時：12月14日(水) 11:00～12:30
講 師：大阪新美術館建設準備室主任学芸員 植木啓子氏
会 場：神戸女学院めぐみ会館
受講料：1,000円(学生は無料) ※要予約(HPも可)
- 2016キリスト教セミナー
「コヘレト書の世界(全3回)」
第1回 2017年2月8日(水) 10:30～12:00
コヘレトとはだれか？
第2回 2017年2月22日(水) 10:30～12:00
「空の空」―批判的思索
第3回 2017年3月8日(水) 10:30～12:00
徹底的批判―伝統との再会
講 師：神戸女学院チャプレン・大学文学部総合文化学科教授 飯 謙氏
会 場：神戸女学院めぐみ会館
受講料：各回1,000円(学生は無料) ※要予約(HPも可)
- 「神戸女学院めぐみ教育基金」招聘教員による特別講演会
「GENDER (IN) EQUALITY IN JAPAN AND POLAND on the Example of Political Representation」
日 時：2017年1月24日(火) 13:30～15:00
講 師：神戸女学院大学文学部英文学客員講師
Monika KSIEŃIEWICZ氏
会 場：神戸女学院めぐみ会館
受講料：無料 ※要予約(HPも可)
問い合わせ・申し込み：公益社団法人神戸女学院めぐみ会
TEL 0798-51-3545 URL: http://www.megumikai.or.jp/

SNSはじめました

神戸女学院大学では、SNSによる情報発信を始めました。
本学の学生や学内の様子など、本学の魅力と最新情報を発信していきます。
ぜひ、フォロー、いいね！をお願いいたします。



「Vistas」アンケートのお願い

神戸女学院大学広報誌「Vistas」をご覧いただきありがとうございました。
P.17～18にアンケートハガキがございますので、皆様からのご意見・ご要望等
をお寄せください。

―※行事について特に記述のないものは、基本的に申し込み不要・無料です。―